

のびのび



2019年度校長室だより 第5号 令和元年10月4日

湯田小学校のキャッチフレーズ： あしたも会おうね 温かい学校 ～ 学び合い ～

2019年度チャレンジ目標：湯田小ABC 合い言葉：やさしい言葉

こんなところに…「やさしい言葉」

千羽鶴にみんなの願いをのせて

校長 伊藤 豊



去る9月26日・27日、一泊二日の旅程で、6年生は修学旅行に出かけてきました。今回の学習テーマは「千羽鶴にみんなの願いをのせて～平和な世界をいつまでも～」です。修学旅行から遡ること2週間、千羽鶴を捧げる『原爆の子の像』のモデル、佐々木禎子さんの実のお兄さん、佐々木雅弘さんから直接お話を聞く機会に恵まれました。太平洋戦争当時の佐々木家の様子や原爆被爆後の佐々木家、とりわけ実妹禎子さんの闘病の様子を情熱的に語ってくださいました。6年生は、事前学習

で禎子さんの折り鶴に関する物語を知った上での参加でしたが、当時佐々木家がおかれた経済状態や禎子さんを看病する家族のリアルな姿を知ることになり、実に考えさせられました。その上での修学旅行でしたので、平和学習は非常に充実したものになりました。私は、2号車に同乗したのですが、広島市が近づくと、係児童の呼びかけで平和集会のリハーサルが行われるなど、とても意気込んでいました。丹精込めて作成した千羽鶴を捧げながら歌った「ビリーブ」。歌詞には「たとえば君が傷ついて、くじけそうになった時は、必ず僕が側にいて、支えてあげるよ、その肩を。」と、やさしい言葉があります。原爆の子の像の前で誓った言葉が、6年生の心に刻まれて永遠に残っていくことを願いたいと思います。

- 一、自分の命も他の命も大切にします。
- 一、家族や友だち、地域の人とも仲良くしていきます。
- 一、他の国のことも、日本のこともよく知り、この平和が続くように行動できる人になります。



秋の日はつるべ落とし

秋分の日を過ぎ、夕暮れが早くなってきたことを実感しています。児童の帰宅時刻も、10月からは17時と早まります。夕暮れ時は特に自動車の往来も増しますので、自転車を利用する児童には早めのライト点灯や反射材の活用を呼びかけています。

さて、児童の気が緩み、事故につながりかねない場面に何度か出会いましたので、各ご家庭でも注意喚起をお願いできればと思います。また、地域の皆様も、こうした姿を見かけられましたら「危ないよ」と声をかけていただきたいと思います。具体的には次のとおりです。

場面1 本校では、自転車に乗車する場合はヘルメットを着用するように呼びかけています。先日、NOヘルメットの児童がいましたので声をかけると「無かったから」と、あっけらかんと答えてきました。「いやいや、無かったら探すとか、無い状態では乗車しないと

か、考えなくては。」と指導して取りに帰らせました。その後、自宅駐輪場でヘルメットを見つけたようです。この場合、自転車で出かけることが安全より優先されている点が問題です。最も大切なものは何かを考えてほしいものです。

場面2 登下校の際、故意に違う道を通ったり、途中で遊んだりしたことで到着時刻が大きく遅れて家族や先生に心配をかけることがありました。通学路や登下校時刻を児童自身や保護者の皆さんには予めお知らせしています。全ては、児童の安全を願ってのことになります。児童自身の「高性能な心のブレーキ」を期待したいと思います。

湯田地区総合避難訓練&ふれあい安心安全フェスタが盛大に開催されました

人が人を思う時、そこには自然と絆が結ばれ、思いが強ければ強いほど、絆もまた強まってくるのだらうと思います。9月29日(日)に開催された湯田地区総合避難訓練&ふれあい安心安全フェスタが、まさにそうでした。

湯田コミュニティ運営協議会安心安全部会の皆様を中心に、非常に綿密な計画をお示しいただいたのが1学期でした。時間配分・人員配置・必要な物資・担当部署といった項目がきちんと計画されていました。また、体育館床の修理が終わったばかりということで、参加者に不便をかけずに床をどのように守るかにしてもきちんと考えられていました。いよいよ準備が迫ってきた段階で、今度は当日の天候をにらんだ修正案が立案されました。参加者に不便をかけずに開催する代案でした。昨年度が台風接近のために開催されませんでしたから、今年こそはという主催者の強い思いも伝わってきました。



こうした熱意にこたえるように、本校PTAのみなさんもたくさん協力して準備を進められました。なかでも体育館床の養生はたいへんでした。最初に、床一面に養生シートを敷きました。続いてフロアシート、最後にブルーシートと敷いていったのですが、敷き詰めるとなれば体育館床も相当広いことが身にしみて分かりました。

翌日は天候の心配もなく、計画に従って進行していきました。湯田地区は、近年、災害による大きな被害を受けていません。だからこそ、平時の備えが重要なのだと感じました。各自治会でまとまって避難してこられる様子を拝見し、コミュニケーションの大切さを感じました。私は、教頭と共に避難所となる体育館の簡易点検を行い、避難所開設宣言をしました。体育館という空間に、各自治会から様々な世代の人々が避難してきた時に、座る場所の決定は？トイレや飲料水の確保は？外部との連絡手段・情報の一元管理は？…???考えれば考えるだけ備えることが浮かんできます。今回は、各自治会の防災リーダー研修が行われましたが、誰かが知っている・聞いたことがある・体験したことがあるだけで安全度は高まるのだと思います。こんな真剣な大人たちを間近にしながら、子供たちは各ブースで多くの体験をし、楽しみながら学んでいくことができました。今回の企画・準備・運営に当たられた全ての皆様方、本当にお疲れ様でした。

